

分かち合いの手引き

メッセージ ～イエス・キリストの生涯⑩～『誓いについて』
聖書箇所 新約聖書 マタイの福音 5章 33～37節

山上の説教の中の「対立命題」と呼ばれる六つのテーマについて学んでいます。これまでのテーマ（殺人、姦淫、離婚）はどれも深刻で重大なテーマでしたが、今回は「誓い」の禁止で、あまり重要度が高いとは思えません。文字通り実践すべきことなのか、なぜ重要なのか、一緒に考えましょう。

1. 誓いに関する聖書のみことば

聖書は必ずしも誓いを禁じてはいません。初代教会のクリスチャンも誓うことを避けてはいなかったようです。ヘブル書には神様が誓われたという箇所があり(ヘブル 6:13-17)、イエス様ご自身も誓っておられるように見える箇所が多数あります(「まことにまことにあなたがたに言います」とおっしゃっている箇所)。イエス様は決して誓ってはならないと言っておられますが、誓うこと自体を禁じておられる訳ではないようです。では何を禁じておられるのでしょうか。

【設問】誓いの禁止の戒めをどのように理解していましたか。

2. 偽りの誓い

旧約聖書には、偽りの誓いの禁止や誓いを果たさなければならないという教えが旧約聖書にあります(例えば、レビ記 19:12、民数記 30:2 等)。主の御名によってなされた誓いは必ず果たされなければなりません。そこで律法の専門家たちは抜け道を考え出し、主の御名ではなく、天、地、エルサレム、自分の頭等にかけて誓いました。それなら破っても問題ないとしたのですが、曲解です。イエス様が誓いの禁止によって求めておられるのは真実さや誠実さです。誓いの有無に関わらず、私たちの言葉は真実でなければなりません。

【設問】あなたは嘘を言わないように気をつけていますか。

3. 真実は神を証しする

今回のテーマをあまり重要なものと考えないのは、嘘や偽りをそれほど深刻な問題として捉えていないからです。少々の嘘は問題ないと考えたり、嘘に対して罪悪感をほとんど持たない人もいます。嘘が習慣化すると、何が真実で何が偽りなのか、その区別が付かなくなります。悪魔は偽りの父(ヨハネ 8:44)であり、嘘や偽りが大好きで、虚構の世界に人々を誘い込みます。一方、私たちの信じる神様は真実なお方です。イエス様は真実を語り、真理に生きられました。私たちが神様を信頼できるのは、神様のみことば(約束)が100%真実であるからです。私たちは悪いと思っけていても、つい嘘をついてしまうことがあるでしょう。しかし偽りを容認してはなりません。偽りや嘘は地の塩、世の光とされた者たちにふさわしくありません。偽りは塩気を失わせ、真実な神様の栄光を曇らせます。神様は私たちが闇(偽り)の中ではなく、光(真実)の中を歩むこと、神様との交わりに生きることを願っておられます(Ⅰヨハネ 1:6, 7)。偽りの誓いについて取り上げられているのは、それが地の塩、世の光としての召しを著しく傷つけるものになるからです。また偽りの誓いをするのは、神様と共に生きるふりをするのに等しく、神様との信頼関係を損ないます。重要なことは神様の前にいつも真実であることで、それは他者との関係においても同じです。

【設問】あなたは神様の前に真実ですか。

関連する聖書のみことば

〔新約聖書／マタイの福音書〕

- 5:33 また、昔の人々に対して、『偽って誓ってはならない。あなたが誓ったことを主に果たせ』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。
- 5:34 しかし、わたしはあなたがたに言います。決して誓ってはいけません。天にかけて誓ってはいけません。そこは神の御座だからです。
- 5:35 地にかけて誓ってもいけません。そこは神の足台だからです。エルサレムにかけて誓ってもいけません。そこは偉大な王の都だからです。
- 5:36 自分の頭にかけて誓ってもいけません。あなたは髪の毛一本さえ白くも黒くもできないのですから。
- 5:37 あなたがたの言うことばは、『はい』は『はい』、『いいえ』は『いいえ』としなさい。それ以上のことは悪い者から出ているのです。

〔新約聖書／コリント人への手紙第二〕

- 1:23 私は自分のいのちをかけ、神を証人にお呼びして言います。私がまだコリントへ行かないでいるのは、あなたがたへの思いやりからです。

〔新約聖書／ヘブル人への手紙〕

- 6:13 神は、アブラハムに約束する際、ご自分より大いなるものにかけて誓うことができなかつたので、ご自分にかけて誓い、・・・
- 6:17 そこで神は、約束の相続者たちに、ご自分の計画が変わらないことをさらにはっきり示そうと思い、誓いをもって保証されました。

〔旧約聖書／レビ記〕

- 19:12 あなたがたは、わたしの名によって偽って誓ってはならない。そのようにして、あなたの神の名を汚してはならない。わたしは主である。

〔旧約聖書／民数記〕

- 30:2 男が主に誓願をするか、あるいは、物断ちをしようと誓う場合には、自分のことばを破ってはならない。すべて自分の口から出たとおりのことを実行しなければならない。

〔新約聖書／ヨハネの福音書〕

- 8:44 あなたがたは、悪魔である父から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと思っています。悪魔は初めから人殺しで、真理に立っていません。彼のうちには真理がないからです。悪魔は、偽りを言うとき、自分の本性から話します。なぜなら彼は偽り者、また偽りの父だからです。

〔新約聖書／ペテロの手紙第一〕

- 2:22 キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。

〔新約聖書／ヨハネの手紙第一〕

- 1:6 もし私たちが、神と交わりがあると言いながら、闇の中を歩んでいるなら、私たちは偽りを言っているのであり、真理を行っていません。
- 1:7 もし私たちが、神が光の中におられるように、光の中を歩んでいるなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます。